平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） １９ ※記入不要	提案機関名	農業振興課

要望問題　水田転作茶園における環境保全型栽培方法について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

【背景】

足柄地域では、水田地域での茶園の造成が始まった。水田地域であるため、多量の窒素の投入は、周辺の環境にあたえる影響が心配されるため、茶の少肥栽培が急務である。そこで、点滴チューブを利用した施肥方法の検討や緩効性肥料による少肥栽培等を検討して欲しい。

【内容】

・水田転作茶園における点滴灌水技術の検討
・水田転作茶園における緩効性肥料の検討

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：津久井試験場	
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

環境保全型施肥技術の現地実証試験（仮）

対応の内容等

現在、当試験場でのほ場試験で、点滴施肥及び緩効性肥料による施肥削減技術の検討を行っております。今後の現場への普及性を考えると、同時に現地実証を行うことも重要と考えられます。そこで、要望の新規造成茶園での点滴施肥及び緩効性肥料による施肥削減技術の現地実証試験を実施したいと思います。

現地では本年度新植されたばかりであるため、当面は幼木の生長量調査を行います。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	